

# 中村亮介研究室の紹介

平成22事業年度 決算報告書

国立大学法人筑波大学

区 分	予算額	決算額	差 額	
			(決算-予算)	備 考
収 入				
運営費交付金	42,948	42,581	△ 367	(注1)
施設整備費補助金	7,163	4,250	△ 2,913	(注2)
船舶運送費補助金	0	0	0	
補助金等収入	3,190	3,151	△ 39	(注3)
国立大学財務・経営センター施設費交付金	168	175	△ 7	(注4)
自己収入	29,703	32,381	2,688	
授業料、入学科及び検定料収入	9,825	9,910	85	(注5)
附属施設収入	18,687	21,065	2,408	(注6)
財産処分収入	0	0	0	
雑収入	1,191	1,386	195	(注7)
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	5,580	7,811	2,231	(注8)
引当金取崩	342	334	△ 8	(注9)
長期借入金等収入	0	0	0	
貸付金回収金	0	0	0	
差額剰余金	0	0	0	
目的剰立金取崩	0	765	765	(注10)
計	89,084	92,468	3,374	
支 出				
業務費	67,416	66,500	△ 916	(注11)
教育研究経費	48,319	46,179	△ 2,140	
設備経費	19,081	20,321	1,224	
施設整備費	7,331	4,425	△ 2,906	(注12)
船舶運送費	0	0	0	
補助金等	3,190	3,082	△ 98	(注13)
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	5,580	6,587	1,017	(注14)
貸付金	0	0	0	
長期借入金償還金	5,577	5,577	0	
国立大学財務・経営センター施設費補助金	0	0	0	
計	89,084	86,191	△ 2,903	
収入-支出	0	6,277	6,277	

## 財務会計に関する研究

# 1. 自己紹介

## □ 経歴

1982年2月 群馬県高崎市にて生まれる  
2000年3月 群馬県立高崎高等学校 卒業  
2004年3月 一橋大学商学部 卒業  
2009年3月 一橋大学大学院博士後期課程修了  
2009年4月 帝京大学経済学部経営学科 講師  
2013年4月 帝京大学経済学部経営学科 准教授  
2013年10月 筑波大学ビジネスサイエンス系 准教授(至現在)



2019年9月 ゼミ合宿にて  
(左から3番目が本人)

- メイン研究テーマ:財務会計論, 実証的会計分析(財務制限条項(financial covenants)に関する研究が主です。また, 保守主義(conservatism)・疑似通貨・保険会計・報酬契約についても論文を書いています。)
- 好きなもの:娘×2+息子×1・ゴルフ・SASUKEオールスターズ・Mr.Children・TBSラジオ・広島東洋カープ・水曜日のダウンタウンetc.

## 2. 中村研究室の概要①

- 中村研究室では、財務会計に関する研究を行っている。財務会計(財務報告)を取り巻く現状は、国際会計基準(IFRS)を中心にして日々、刻々と変化を遂げている。
- その中で、会計学の先進的な知識をベースに、会計情報が実務のどのような局面で利用されているか、または役立つかを研究している。

■ 国際会計基準を採用もしくは共通化する国の動向



■ 国際会計基準を採用もしくは承認した国  
■ 国際会計基準を共通化もしくは採用を目指している国

※ 出所：IFRS コンソーシアムHP

<http://www.ifrs.ne.jp/about/index.php>

## 2. 中村研究室の概要②

- たとえば、以下の研究テーマをもつ学生の指導を行うが、財務会計に関するテーマであれば、これにとらわれない。

(ア) 会計データや株価データなどを対象に計量経済学的手法を用いて調査する、実証的会計研究

(イ) 会計制度について過去の文献や会計基準設定団体などが公表している資料などをもとに研究する、制度会計研究

(ウ) 特定の産業または企業の会計的分析 など

### Keywords

会計・簿記・会計基準・国際会計基準（IFRS）・企業分析・企業価値評価・監査・融資契約・報酬契約・財務諸表分析・キャッシュ・フロー・無形資産・不正経理・M&A・包括利益・会計発生高・公正価値会計・時価会計・IR など

## 3. 指導スケジュール

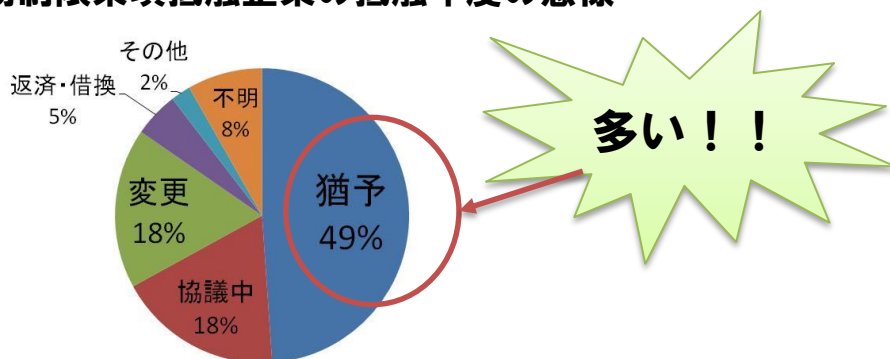
- 特に決まっていない。学生の予定に合わせて随時ゼミを行い、特定の書物に関心があれば適宜、輪読を行っていく予定である。
- ゼミは月に1-2回、時間は1-2時間/回、学生の希望に応じて随時行っている。
- 2020年5月現在、博士課程3名(IFRS 適用によるステークホルダーへの影響分析・ESGが企業価値へ与える影響分析・日本基準とIFRSの利益の質分析)、修士課程2名でゼミを行っている。秋には合宿を予定している。
- 輪読の際のテキストは、たとえば以下を考えている。
  - **実証会計**:大日方隆(2013)『アドバンス財務会計[第2版]』中央経済社。  
田村威文・中條祐介・浅野信博(2015)『会計学の手法』中央経済社。
  - **企業価値評価**:伊藤邦雄(2014)『新・企業価値評価』日本経済新聞出版社。桜井久勝編著(2010)『企業価値評価の実証分析』中央経済社。
  - **企業分析**:S.H.ペンマン著, 荒田映子・大雄・勝尾裕子・木村晃久訳(2018)『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』有斐閣。

## 4. 教員の主なテーマ

### ① 財務制限条項

日本では、債権者と企業との契約で締結される財務制限条項に実際に抵触しても、契約時の取決めとは異なり、必ずしも一括返済を求められないケースが多く、その存在意義について再検討しなければならないことがわかっている。そこで、より効率的な財務制限条項の設定にはどのようなファクターが必要なのかを研究している。

財務制限条項抵触企業の抵触年度の態様



### ② 業績連動型報酬契約

近年、コーポレートガバナンス改革により、経営層の企業業績に対する評価を報酬に反映する業績連動型報酬契約が注目されている。そこで、効率的な報酬契約のためには会計数値をどのように利用すればよいかについて研究している。

## 5. 実証的会計分析のイメージ

### □ Basu(1997)モデル:保守主義の程度を測定するモデル

$$NI_{i,t} = \alpha + \beta_1 R_{i,t} + \beta_2 D_{i,t} + \beta_3 R_{i,t} * D_{i,t} + \alpha_t \text{Year} + \alpha_k \text{Industry} + \varepsilon_{i,t}$$

$NI_{i,t}$  当期純利益÷期首時価総額

$R_{i,t}$  期末の9カ月前を始点とした12カ月間のバイアンドホールド・リターン

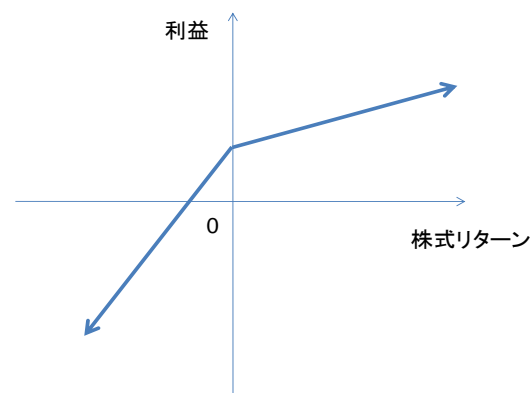
$D_{i,t}$   $R_{i,t}$ が負の値である場合には1, それ以外の場合には0をとるダミー変数

### ※ 推定結果

Control Variable= $NI_{i,t}$		
$R_{i,t}$	0.013 [2.768]	***
$D_{i,t}$	-0.008 [-2.966]	***
$R_{i,t} * D_{i,t}$	0.232 [19.561]	***
Year FE	YES	
Industry FE	YES	
N	31,695	
Adj.R <sup>2</sup>	0.105	

(注) [] 内の値はt統計量を示している。\*\*\*は1%水準で有意であることを示す。

### ※ Basu(1997)モデルのイメージ



※マイナスの株式リターン（バッドニュース）の方が、利益の反応度（傾きの絶対値）が大きい。

## 6. 入学を志望する学生へ

---

- 企業会計は、企業活動を映し出す鏡です。そのため、企業を分析・評価するためには会計の知識は欠かせません。学生の皆さんには、会計が投資家・債権者をはじめとする利害関係者の行動にどのような影響を与えるか、について理解してもらいます。
- 「誰のために役立つ研究か？」を常に明確にして臨んでいただきたいと思います。一緒にがんばりましょう！

✓ ホームページ

<https://sites.google.com/site/nakamuraryosuke1982/home>